

人にやさしく！

校長 新居崎 杉彦

6年生のみなさん、卒業おめでとう！！

やわらかな春光に心躍る季節となりました。今年度も本校の取組にご協力いただき、ありがとうございました。今年度末は、新型コロナウイルスの感染予防のため休校を余儀なくされ、この校長通信をお渡する日が卒業式の日となってしまいました。全国的な流れとはいえ、6年間の集大成となる3月の大切な時を子どもたちと一緒に過ごせなかったことが残念でなりません。しかし、2月28日金曜日に臨時休業前の一日をめいっばい過ごせたこと、また2月26日に「6年生を送る会」を実施できたことがせめてもの救いであったように思います。

さて、今回の校長通信は、6年生のみなさんに読んでほしいと思い作りました。この校長通信の他にも6年生のみなさんには、「卒業文集」や「PTA新聞」で卒業に寄せて原稿を書かせてもらいましたので、じっくり読んでくれたらうれしい限りです。ということで、今回の校長通信では、突然の臨時休業でみなさんに伝えられなかった、毎月11日の「人権を確かめあう日」の校長先生の原稿を読んでもらおうと思います。

今から話すことは、少し前の出来事です。校長先生が電車に乗ると、満員で席は空いていませんでした。夕方の時間だったのですが、学校帰りの中学生の男子の子たちが3人でしゃべっています。6年生ぐらいの女の子もひとりで座っていました。

そこへ、おばあさんが乗ってきました。おばあさんは窓際に立っていました。女の子は席を譲ろうとしているのか、おばあさんの方をチラチラ見ては、もじもじしていましたが、とうとう席を譲れないまま、おばあさんは電車を降りてしまいました。

もし、みなさんがその場にいたら、あなたは、おばあさんに席を譲ろうと思う人ですか？それとも、譲りたくないと思う人ですか？それとも、おばあさんには無関心な人ですか？

その女の子は、おばあさんが電車を降りると「ふー」と寂しいため息をついて、肩を落としました。その様子を見て、校長先生は、この女の子のことがとても好きになりました。優しい気持ちの人は、いつも心が疲れてしまいます。いつも周りの人のことを気にしているから、どうしてあげたらいいかなと迷って心が疲れてしまいます。でも、校長先生が気がついたように、きっと誰かが見てくれています。学校でも、そんな優しい誰かのことを先生や友達がきっと気付いています。「周りの人のことを気にかけて心が動く」、そんな人でありたい、あってほしいと願っています。

「人に優しく」は丹波市小学校の合い言葉です。「自分は、失敗した人や困っている人を助けてあげたいという気持ちを持って、毎日生活できたいだろうか」ということをひとりひとりが確かめてください。そして、優しい気持ちで、この世界を見渡してみましよう。きっとみんなの人生も今までとは変わるはずです。



これが、校長先生の「人権を確かめる日」のお話でした。6年生のみなさんには、卒業しても、丹小合い言葉、「人にやさしく、自分にきびしく」を覚えておいてほしいと思います。そして、やさしい気持ちをもったままで大人になってくれたらと思います。みなさんの未来に、たくさんの笑いと楽しいことがいっぱい待っていることを祈っています。

6年生を送る会

2月26日(水)に「6年生を送る会」を行いました。1年生から5年生の在校生が、6年生にこれまでお世話になったことを感謝する気持ちをもって、精一杯発表しました。それぞれの学年が、いろいろ工夫しておこなった発表は、6年生のみなさんに、その想いが伝わったことだと思います。その想いを受け、6年生は素晴らしい合奏を披露してくれました。素直で温かい6年生の言葉や態度は、丹波市小学校の歴史と文化を創る大きな力になっています。見ていて幾度となくほっとした気持ちになりました。6年生の皆さん本当にありがとう。19日の卒業式も素晴らしいものになるよう願っています。



【お礼】 校長通信も今号が最終号となりました。最後までお付き合いいただきありがとうございました。